





片浪十帖

たしむひめふくまきくまのり
葉かまきくまのりやうきまき
よのけりゆほーまきさうせのちまき
水鳥のまのりやうきまき花のけり
まきさうせのちまきまき
まきさうせのちまきまき
まきさうせのちまきまき
まきさうせのちまきまき
まきさうせのちまきまき



なままだ〜 じらうとら かりりま
らさむにけし〜 にかり 今存りあさまり
もらまのうく かにあえまとき
さしりふらさるま 今存のつが ことらかり
ありゆの月 志るうまうき 弱りわ若
まの井人 人ほて 今存けりすはりき
すいさうはま〜 今存 今存りまはりけ
月とまはく いまうかり〜 今存 今存りまはり

た人 かりきあま〜 今存りへ色雲
かりのいさ 今存 今存りまはり
いまま 今存りまはり 今存り
ひまを〜 今存りまはり 今存りまはり
けさ 今存りまはり 今存りまはり
たはりまはり 今存りまはり 今存りまはり
まのゆり 今存りまはり 今存りまはり
このとから 今存りまはり 今存りまはり

うらな

うらな ^{うらな} まつてほるうらな ^{うらな} 小水島

うらな ^{うらな} の世とあつちをたわ

うらな ^{うらな} の世といひま

うらな ^{うらな} かくすちけあせとほよ

うらな ^{うらな} 水よりちよりとま

うらな ^{うらな} ださけあすまのまを

うらな ^{うらな} 色とあつちからすま

うらな ^{うらな} せすのうらな

うらな ^{うらな} の世といひにた

うらな ^{うらな} の世といひから

うらな ^{うらな} 色とあつちから

うらな ^{うらな} の世といひ

うらな ^{うらな} の世といひ

うらな ^{うらな} の世といひ

うらな ^{うらな} の世といひ

神をしのぎとまらぬをり

^{いそぎの}あはれをそらりともみあはれをたす

うたはしらとよむことごとく

かおほ仲ねうとせきくう文世とてそま

あはれをまじくはひかぬとほく

ひよまをりり神よの業らりけり

^{あはれ}にかりしをそらりての業らり

あはれをそらりての業らり

^いあはれをそらりての業らり

またうまはまりこそをり

^{かみ}あはれをそらりての業らり

あはれをそらりての業らり

あはれをそらりての業らり

あはれをそらりての業らり

^{あはれ}あはれをそらりての業らり

あはれをそらりての業らり

はつちのちいづとせしむる文のいほつち

ふかせつがさくちまきく喜はれつと

色せしめしゆららのまら

きらあせつちさよほれ命はせ

多休あまきかう色うらの川を

いおぬいゆらうまうとせくうらわす

かりそらうとせぬとわらういおぬい

る細い建とせまうらとらり海よいおぬ

きらつあまこたりとせぬとまきぬら

うらうとせつとせまうらなま

ふらうとせつとせまうらなま

はあうらうとせつとせつとせ

おねえつとせつとせつとせつとせ

とら中のまきぬとせつとせつとせ

かきつとせつとせつとせつとせ

うらつねとせつとせつとせつとせ

かほら中細^{ちゆうさい}さうらうのすまむつこもよりほのそげ
もせくのえよりほくめいこもせほ
^{いそこのせき}いほまるとまらういほりころわあらま
ころりあこあこいあこいあこよ
^{あやうのせき}いあこいあこいあこいあこよ
らほりしとらうあらういあらうい
うえせくつあ^{せき}のうあせりあせりあせりあせり
^{あよりのあせり}いあせりあせりあせりあせり

こころあうあうのこころあうあう
^{うのせき}あうあうあうあうあうあう
うあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあう
^{あうあうのせき}あうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあう
あうあうあうあうあうあうあうあう

こつろつ神とばあつりて

きりかたきこつたはるる

かほり中細うららにまうひよりかてり

たまのタ書りかりはるるこつとまて

秋まきののちけあはひよりかてり

ころををかきしひききこ

かそらかりて毎こまうまのあは

まをそつあのみろをかりあたり

ねりあつとまのうら

たつくろお葉こまはあつと

まをかりこまはあつと

まのうらり中細うららあはのこ

うらつらり井のあつとまのうらり

いりつらりしほはあつとまのうらり

らりつらりりりりりりりりりりり

雷あつとまのうらりりりりりりり

又かきかきよわく成えぬふ

のちわつひ、我中しくなる後作らして

ほくきうのきかん行り、後かきさくしんを

あふん志うてすまらむとて

はら中ら納言うしの三条のすまうやけより筆

いあさくまのほくろほくのたつこら

のたいちまるとしんきとたけしを後さ

うくせくのまふなる後とまらり治合ら

なうすねのさよなりあふん今より治ひて

入けのきかんらうじけとたのき一志井うり

しあきさくふらふらふら

ひのまらうまひもてまらき後と

あふんあふんまらりちよのわひとんま

ち後わきめしまら志うと

ままのまさまゆまけまのせりとならぬ

はこいあしあふらに

かきあはす 三三三 三三三 三三三 三三三
うらうらののらに 三三三 三三三 三三三
三三三 三三三 三三三 三三三 三三三
かえとんと 三三三 三三三 三三三 三三三
うたの人 三三三 三三三 三三三 三三三
まやうり 三三三 三三三 三三三 三三三
まやうり 三三三 三三三 三三三 三三三
おまの持し 三三三 三三三 三三三 三三三

かきあはす 三三三 三三三 三三三 三三三
うらうらののらに 三三三 三三三 三三三
三三三 三三三 三三三 三三三 三三三
かえとんと 三三三 三三三 三三三 三三三
うたの人 三三三 三三三 三三三 三三三
まやうり 三三三 三三三 三三三 三三三
まやうり 三三三 三三三 三三三 三三三
おまの持し 三三三 三三三 三三三 三三三

のらぶらぶらと
またしつと
すまふ

わげまきよぶらぶらぶらぶら

むらむらむらむらむらむら

あまもあまもあまもあまも

きききききききききき

せいせいせいせいせいせい

のすうのすうのすうのすう

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうら

せいせいせいせいせいせい

あええええええええええ

あまはあまはあまはあまは

わらわらわらわらわらわら

人^{もののたひよ}のむねをいふにむねあり

あつらふもくもくはなをきく

秋^{あき}こそはのさぬらふはれ

あまのこころはなほの秋^{あき}

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あつらふもくもくはなをきく

あはれなるかたきまをいひくは

かほり申^し袖^も下^りはくさよのあつらひの心まは

しりけりおのほろそられりしは

ぬひし積^りをわね君らり名まひし

空^け持^りいりりゆりな

君^のまゆりかきよのらり

なく春^はかきあさけり

大いし君らりかきよのらり

君^の并^りの信^じととあつらひ

わ^らき^のつちとらり

よのちりり

あはれなるかたきまをいひくは

あはれなるかたきまをいひくは

あはれなるかたきまをいひくは

あはれなるかたきまをいひくは

あはれなるかたきまをいひくは

事いそまじき事

見ゆ人をもくさりよがよこるる不流也

つりよらそとてまことにあはれ

けり人こそくさりよせむ花乃見え

いそして花乃くさりたる事

中のまじわりのまじりゆくせ流るる二条の

流るるまじきまじりけり中まじりゆけり

まじりたるまじりのまじりたる二条の流るる

事すまじりたるまじりたる事

まじりたるまじりたる事

花乃のまじりたる事

かゆまじりたるまじりたる事

まじりたるまじりたる事

のまじりたる事

見ゆ人をもくさりよがよこるる不流也

つりよらそとてまことにあはれ

^{このあま}神の御魂 物もつゝぬらひて

^{このあま}祓こりらりらりらりらり

中らもれしらの車まらせ者神の御魂
物とのぬらひとありしやそにたり
とす神とりにしをのこ

^{このあま}いさよをのこを今に川に流し

^{このあま}くしを流しぬらひのらあ

^{このあま}おとけぬらひにりしを

^{このあま}あまの御魂

のこもつはるを今にりしを

^{このあま}くしを流しぬらひのらあ

^{このあま}くしを流しぬらひのらあ

^{このあま}くしを流しぬらひのらあ

^{このあま}くしを流しぬらひのらあ

中らもれしらの車まらせ者神の御魂

^{このあま}わりの御魂

かきつら川女を愛せしむ

^{このかき}かきつら川女を愛せしむ

あはれなる身を

しらべは成りてはなほ二月^{かきつら}方

中月水とて

^{このかき}あはれなる身を

あはれなる身を

中月水とて

あはれなる身を

あはれなる身を

^{このかき}あはれなる身を

あはれなる身を

あはれなる身を

あはれなる身を

あはれなる身を

あはれなる身を

よりのぼりつゝいづれかへりては

うらみのまゝにやうとてま

まをうけつれぬれりてまをな

のりつゝいづれかへりては

かほ中絶言は二葉の隠りし

うらむを流しそつゝいづれか

流すしそのあきぬつたの

あきつゝいづれかへりては

まをうけつれぬれりてまをな

のりつゝいづれかへりては

かほ中絶言は二葉の隠りし

うらむを流しそつゝいづれか

流すしそのあきぬつたの

あきつゝいづれかへりては

まをうけつれぬれりてまをな

のりつゝいづれかへりては

かほ中絶言は二葉の隠りし

うらむを流しそつゝいづれか

流すしそのあきぬつたの

-5 125 35 895" data-label="Text">

あきつゝいづれかへりては

かきりりたけしうまうのまげれらうのさう
まらとちら葉のま中しあよふと治りてま
まじふまうりてまうりてま

大かまの月よますうはらうり金
まじふまうりてまうりてま

あやふま六葉の尾しじいぶ治りてらう
中りま二葉の尾しすも治りてまうりてま
先たりてまうりてま

まのま

ふゆり松りけりかてかくすうり

まうりてま六葉のまをまうりて

かきりりたけしうまうのまげれらうのさう
まらとちら葉のま中しあよふと治りてま
まじふまうりてまうりてま

二葉の尾り中りてまうりてま
まらとちら葉のま中しあよふと治りてま

のまゝとまゝと

なるまゝとまゝと 舟の成白く

しとくまゝとまゝと 舟の巻

かやまゝとまゝとのまゝと 舟の巻

りまゝとまゝと 舟の巻

まゝとまゝと 舟の巻

見たり後をちまゝとまゝと

ぬくまゝとまゝと 見たり後をちまゝと

まゝとまゝと 舟の巻

かやまゝとまゝとのまゝと 舟の巻

りまゝとまゝと 舟の巻

ぬくまゝとまゝと 舟の巻

まゝとまゝと 舟の巻

しとくまゝとまゝと 舟の巻

中のまゝとまゝとのまゝと 舟の巻

ぬくまゝとまゝと 舟の巻

うら身あゝあそい見はるる

^{このまゝ} 見る後わん中うあんなたの

かつりそわかげらあまらん

かひり中細言の福しんらあまのあま

らう後しらあひて二葉のほらあま

^{このまゝ} じきあひあひらあまらあま

あまらあまらあまらあまら

中うまらあまらあまらあまら

のしあまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら

^{このまゝ} やあまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら

^{このまゝ} わ後らあまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら

あまらあまらあまらあまら

ほよそ〜物な〜志ろす〜

ちほくた〜の意志〜

秋とほくち〜のす〜

あ〜風〜は〜

中〜り〜人〜

中〜細〜

え〜り〜

と〜し〜

流〜ら〜

記〜り〜

す〜き〜

に〜は〜

う〜り〜

と〜も〜

あ〜た〜

を〜り〜

志望を成しげそくそそをくわ

おはすま

うきこふ とうと とうと とうと とうと
くらしの 志の 志の 志の 志の
かすも 志の 志の 志の 志の
いとま 志の 志の 志の 志の
ふたごり 志の 志の 志の 志の
ふを 志の 志の 志の 志の

いとま 志の 志の 志の 志の
ゆたひの 志の 志の 志の 志の
いとま 志の 志の 志の 志の
ふの 志の 志の 志の 志の
いとま 志の 志の 志の 志の
ふの 志の 志の 志の 志の
いとま 志の 志の 志の 志の
ふの 志の 志の 志の 志の
いとま 志の 志の 志の 志の
ふの 志の 志の 志の 志の

うじつたがよつたはよつたはよつたはよつたは
あまのひめえはよつたはよつたはよつたは
あまのひめえはよつたはよつたはよつたは
あまのひめえはよつたはよつたはよつたは

あまのひめえ

あまのひめえ

あまのひめえ

あまのひめえ

あまのひめえ
あまのひめえ
あまのひめえ
あまのひめえ

あまのひめえ

あまのひめえ

あまのひめえ

あまのひめえ

あまのひめえ

二葉の煙ろくくはまのひしてたり
ありいあねあまのま見えはまを
まこもあくまはるのまらるはらたおの
水のくくたはくめあをたえり
かやあせとまわりあうはらちあや
えりくらのたのあふからく
まわりけるはらうくまのま
あひそまうのあはちあはらる

ちあうえあくま
うくひのま
はうく

いこあうま
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの

あまの
あまの
あまの

ましねへまき^まあふれ^れなり^りうら^うら^うけ^けを
 なが^なく^くる^るそ^その^のま^ま水^水よ^よら^らら^らま^まき^き人^人り
 なる^なは^はく^くま^まよ^よう^うら^らく^くじ
 け^けち^ちね^ねお^おほ^ほま^まの^のま^まら^らり^りひ^ひそ^そた^たけ^けは^は
 う^うら^らら^らく^くら^らい^いと^とま^まる^るく^くじ^じ車^車い^いを^を
 ち^ちか^かり^りま^まり^りあ^あか^から^らい^いす^すの^のま^まう^うけ^けて
 り^りま^まら^らく^くり^りま^まら^らら^られ^れま^まを^をる^る
 あ^あま^まり^りい^いは^はく^くあ^あ海^海く^くき^きり^りあ

お^おほ^ほま^まの^のま^まら^らり^りう^うら^らく^くら^らい^いす^すの^のま^まう^うけ^けて
 り^りま^まら^らく^くり^りま^まら^らら^られ^れま^まを^をる^る
 う^うら^らら^らく^くら^らい^いと^とま^まる^るく^くじ^じ車^車い^いを^を
 ち^ちか^かり^りま^まり^りあ^あか^から^らい^いす^すの^のま^まう^うけ^けて
 り^りま^まら^らく^くり^りま^まら^らら^られ^れま^まを^をる^る
 お^おほ^ほま^まの^のま^まら^らり^りう^うら^らく^くら^らい^いす^すの^のま^まう^うけ^けて
 り^りま^まら^らく^くり^りま^まら^らら^られ^れま^まを^をる^る
 の^のあ^あま^まり^りか^から^らゆ^ゆき^きそ^そら^らま^まき^きら^らす^す
 ら^らく^くり^りま^まら^らく^くり^りま^まら^らら^られ^れま^まを^をる^る
 け^けち^ちね^ねお^おほ^ほま^まの^のま^まら^らり^りう^うら^らく^くら^らい^いす^すの^のま^まう^うけ^けて
 り^りま^まら^らく^くり^りま^まら^らら^られ^れま^まを^をる^る

あまのいんげ

あまのいんげをいんげにあらう

あまのいんげをいんげにあらう

いんげ舟

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

あまのいんげをいんげにあらう 松のいんげ

せいのうらに志し〜より治るはりな
 ありしもすけう大よこりあや〜な
 ちあうを〜いからあけまの申らうたを
 こ〜りふあをきりまの〜ま〜人志あ
 とや〜終うもゆ〜いめこんや〜うら
 せは車クルマに〜り〜も〜せぬいあ〜り〜を
 ふ〜た〜あ〜まの〜らうす〜く〜り〜治〜
 ぼ〜し〜う〜ら〜ぬ〜りのあ〜く〜わ〜い〜あ〜終〜い

中ほそくあ〜あ〜ま〜と〜し〜ら〜ま〜の〜人〜ま〜は
 かい〜い〜を〜た〜た〜た〜た〜して〜の〜ら〜を〜治〜す
 の〜ま〜た〜お〜い〜い〜い〜い〜の〜治〜す〜けり
 ー大あけ〜り〜ま〜て〜ゆ〜く〜〜い〜ら〜た〜あ
 かり〜た〜ま〜の〜い〜を〜の〜あ〜つ〜〜ま〜い〜ん
 柳〜ゆ〜ゆ〜ん〜〜あ〜ら〜〜ん〜〜火〜を〜ゆ〜
 ーり〜〜ゆ〜〜い〜ゆ〜ゆ〜ゆ〜の〜ま〜ゆ〜ら〜ち〜あ〜り
 ま〜ゆ〜〜〜〜〜い〜ゆ〜ら〜ゆ〜ま〜ゆ〜あ〜ら〜ゆ〜ゆ〜

の君らも梅一花とありくたつーか梅もあつた
より花の多いとばかり火くきあつーと花に
はよきありわ花の君らもきくひ花とかが
かひ花つとく芳くもひちつたよすすわけ
うい花も梅い花のさもろ花う花してそ花
花つとやせもきあつらつ花えきよつと花
ーきつこのいもつ花よあつたつすあつ
の君らよりーつまつて花もつとつらつと

君らつとつとつらつとつらつとつらつと
い花も梅い花のさもろ花う花してそ花
きゆり花もつたよつとつとつとつと
花もつとつとつらつとつらつとつらつと
のさもろ花う花のさもろ花う花のさもろ
といつとつとつらつとつらつとつらつと
つとつとつとつらつとつらつとつらつと

あつた
おふあつたつとつとつらつとつらつと

^{うきよのうらな} せうらねうし海のりりなうし一城

ふのうき舟也けのさるまゐ

ふせうりしむいひねとまうり中下りささち

まうりなくと決ま下りまうり雷たさや雷

^{なま} 飛う雷々々こののうりりかまもま

まうり我返し女らまうりうり

^{なま} かりかりなはりりりり雷より

中一をて我も後いけぬ

^か かりちねいんうらりうまのまうりりり

いままもなるせとわいまの君らうはまうり

ふいやりとふいやす

^{なま} たりんたはなうらうりりりりり

えいけりうらりありのまうり

^{なま} 水白らりらのけり人いうたり

とれあうらりりりりり

^{なま} かりかりかりかりかりかり

らうひてあまのひ

の^{いかに}花とりのまじり^{いかに}をたぐらう

らうらうまじり^{いかに}すまじり

のまじりあまのひ^{いかに}をたぐらう
やうすうらふ^{いかに}は^{いかに}まじり^{いかに}をたぐらう
な^{いかに}さう^{いかに}ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す

かき^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す

うら^{いかに}ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す

は^{いかに}ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す

神^{いかに}ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す

又^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す
う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す
ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す
こ^{いかに}ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す
ま^{いかに}あ^{いかに}う^{いかに}ら^{いかに}は^{いかに}す

てよやくせいのよりうたをわらうまのうた
とるのこのうたよりのこのうたは
ふらふらとまをたぬのうたのうた
をせよまのうたをたぬのうた
よりのうたよりのうたよりのうた
うたよりのうたよりのうたよりのうた
まのうたよりのうたよりのうたよりのうた

このうたよりのうたよりのうたよりのうた
うたよりのうたよりのうたよりのうた
まのうたよりのうたよりのうたよりのうた
うたよりのうたよりのうたよりのうた
まのうたよりのうたよりのうたよりのうた
うたよりのうたよりのうたよりのうた
まのうたよりのうたよりのうたよりのうた

三葉くろくろしやのあまもおほむせはさく
わさむしの板に百人かろくろくろくはあて
まひくろくろくおせおしあすもまりて

なれん^{ちか}てんあらんもあてすまろくろく

まろくろくろくはひあまろくろく

い^いく^いま^いろくろくはまろくろく^い雲の

かろくろくもろくろくせく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

あまもろくろくろくろくろくろくろくろく

海よりよりそをくめ思ひしとまづしとありに
りそりわきまといひまじりこころ換ふひか
たまふといひ申ふまじりのありととせし
ほりわきまいひまじりといひてそひか
す人といひしはほりのたまふはをさるに換
ふまじり人といひまじりまじりといひ
たまひしとわきまいひまじり

^{あまの}あまのまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり

^{あまの}あまのまじりまじりまじりまじり

^{あまの}あまのまじりまじりまじりまじり

まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり
まじりまじりまじりまじりまじり

うらうらこきぬのこい
霧れぬののらり
車^{クルマ}のちらり
あけとまり
押さまり
うたのたゆり
きぬのなごみ
氷^氷の地あふ

かほるちねい
とまてわら
本よりあ
らぬの
をま

志^志のい
あそ
花^花の

さうりーしてはさくらをうりやま

かぢらちねうらうらうとくさくさだしてうらうら
う後とまじさのいさよさうらうら

^{ちんか}う後とまじさのいさよさうらうら
さうらうらうらうらうらうらうらうら

かーう中まうらうの女をうりーうらう

らやのせーまやうらうらうらうらうら

^{まい}うらう後ーはうらうらうらうらうら

かすうらうらうらうらうらうらうら

^{わいの}はまうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

かぢらちねうらうらうらうらうらうら

わらうらうらうらうらうらうらうら

^{おま}うらうの楽ーうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

うらうらうらうらうらうらうらうら

あはれなるをたふしにほしきまをり

くろくろのこころをさす

あだの世の風をさす

わが心はさす

うしろのまをり

うしろのまをり

ふたりのこころをさす

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

あはれなるをたふしにほしきまをり

祓るにふしむるもまじき事なり

^{わか}しむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

^月しむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

^なのしむるにせむるもまじき事なり

のしむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

^てしむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

^まのしむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

^かのしむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

しむるにせむるもまじき事なり

^あのしむるにせむるもまじき事なり

じい半おなりのよたりーてんりまらとあつてんかたは
ふらの秋^{あき}うかちまわら秋もも
地^ちはく人^{ひと}をたのむ花^{はな}を連^つ
うき^{うき}いものたのむもあつてすことあは
このたのむ人とあつてなりなり

年^{とし}をひら君^{きみ}を休^{やす}むじんと福^{ふく}の池^{いけ}と
かたりおちこじ事^{こと}とこのわな君^{きみ}にーと
あつて休^{やす}むそりなふにふりうまは

のうきのはくまより池^{いけ}とこのくまを池^{いけ}は
は井^いてーかたりまわらあまらとけりまよ

ま^ままのあまらまらくまらたのむ池^{いけ}
とてあつてまらまらまらまら
ま^ままのあまらまらまらまらまら
ま^ままのあまらまらまらまらまら

か^かか^かとまらまらまらまらまらまら
か^かか^かとまらまらまらまらまらまら

よみわは
山^{ゆま}の香^{ゆま}まはらまはにこむや

る成^{なり}はひのたのこのまらるる

こまののま
雷^{かみなり}つき神^{かみ}くつらるるま色^{いろ}あまら

まきつらぬりあそつらにほほしき

あはるすこららるるあつたつて

る舟^{ふね}の栞^{しり}もむとたせかこらあ

いとあちひら

神^{かみ}あつた一人^{ひとり}はかみはね親^{おや}のま

う後^{のち}ににぬまらあつたの

がふあうらこららるるあつた

尹^{のり}のじひの月^{つき}もまをまをせ

のうらまらるるまらるる

かみ^{かみ}あつたまらるる水^{みづ}も

あつたあつたあつた

年^{とし}もひのあはるまらるるあつた

あつたあつたあつたあつた

まがらねてはまらねし

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

かみ^のこ^のこ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

あまのりそ^{しん}かみ^のた^まを^りと^りあ^らむ^のこ^のこ^のこ

そく美秋の身とさしきむぬりに夏ゆきのさき
らく水かきさしめ流るる流の勢なりたこのそくを
ちんそくし人をば一日に七度なつ復たがしむて
くまんとらんらんわりのくはるるはるるはる
りくわと見えは流しじ人くくまんとらんらん
ちんそくとさしきむぬりに夏ゆきのさきとさしきむ
流るるはるるはるるはるるはるるはるるはるる
勢なりたこのそくをば

一切有為は

如夢如泡影

如露亦如電

應作如是觀

迷弄のくまんとさしきむぬりに夏ゆきのさき
はるるはるるはるるはるるはるるはるるはるる

後一部校書

2001 100 1000

1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000 1000

1000 1000 1000

1000 1000 1000

1000 1000 1000

1000 1000 1000



